

費など補正

12月定例会

12月定例会は、12月3日から12月24日までの22日間の会期で開催されました。

補正予算のほか、南九州市簡易水道事業に地方公営企業法の規定の全部を適用する条例を廃止する条例の制定についてなど審議されました。

一部の議案に反対討論がありました。すべて原案どおり可決されました。

一般会計の主な補正

補正予算の主なものは、地域の元気臨時交付金を活用する経費及び一部事務組合負担金など、102万8千円を追加し、補正後の予算総額を219億1647万2千円としました。

総務費

○**頼娃庁舎耐震補強及び外壁工事設計業務委託料**

430万6千円

地域の元気臨時交付金を活用して、平成26年度から工事着手するため、測量設計業務を委託するものである。

○**移住定住促進対策事業費**

2100万円

補助金申請件数が多く、不足が見込まれるため、今後の申請に備え36件分を増額補正するものである。

○**災害対策費（一般経費）**

▲471万3千円

本年度実施予定の避難場所看板設置事業において、内容の見直しが必要となったため減額するものである。

〔審査の中で〕

問 住民が避難すべき場所をどのように周知させるか。

答 災害の状況により避難場所が異なるため、看板にわかりやすく標記するなど周知を図る。

衛生費

○**地球温暖化対策事業費**

167万4千円

住宅用太陽光発電導入支援事業補助金に不足が見込まれるため増額するものである。

〔審査の中で〕

問 補助申請件数が増加した要因は。

答 26年4月からの消費税アップや国の補助金が25年度で終了すると公表されたため。



太陽光発電を導入した住宅

○**清掃総務費**

▲2億8106万6千円

南薩地区衛生管理組合において、派遣職員の給与減額と汚泥再生処理施設整備事業に係る工事請負費の減額に伴い、負担金を減額するものである。

農林水産業費

○**有害鳥獣駆除事業費**

122万8千円

有害鳥獣による農作物への被害が多く、当初計画より捕獲頭数が増加しているため増額するものである。

〔審査の中で〕

問 捕獲頭数の現況は。

答 11月末現在でイノシシが250頭の計画に対し295頭、タヌキ・アナグマが200頭の計画に対し449頭と大幅に増加している。

○**基幹水利施設管理事業費**

1251万7千円

夏場の少雨で水利用が多くなり、揚水機場の電気料金が大幅に増加したため増額するものである。

○**都市農村交流対策事業費**

▲345万7千円

アグリランドえい内にあるいちご農園の休園に伴い、運営に要する経費を減額するものである。

〔審査の中で〕

問 休園とした理由は。

答 これまで苗を購入していた業者が、大雨の影響により苗が供給出来なくなったため断念した。



休園中のふれあい農園

移住定住促進対策事業



改修される岩屋公園の平安橋

○活動火山周辺地域防災
営農対策事業費

▲9910万4千円

茶の降灰洗浄施設に使用する水について、水源が確保できなかった場合は補助対象外となることから、4工場が整備を辞退したため減額するものである。

土木費

○公園施設管理費

860万9千円

岩屋公園平安橋の橋梁架け替え測量設計業務委託及び地質調査委託。

○住宅整備事業費

335万6千円

老朽化している水成川団地の公営住宅1棟2戸の解体工事、ウッドタウ知覧集会所の外壁等の改修工事をするものである。

教育費

○社会体育施設管理費

438万7千円

知覧平和公園の駐車場について、地域の元氣臨時交付金を活用して平成26年度から工事を手するため、測量設計業務を委託するものである。

〔審査の中で〕

問 平和公園の駐車場整備の内容は。

答 観光客の利便性を高めるため、交通公園及びゲートボール場を駐車場に整備し、概ね乗用車200台、大型バスの確保と平和会館前への入り口を変更するものである。

○学校施設整備事業費

724万8千円

宮脇小学校及び中福良小学校プールの給水管等の漏水改修など。

また、平成26年度完全複式学級編成が見込まれる田代小学校教室の複式対応化改修を新年度スタート時点で完了させる必要があるため増額するものである。

〔審査の中で〕

問 プールの漏水について、24年度で異常に気付きながら、改修がこの時期になった理由は。

答 異常に気付いた時点では、漏水であるとの確証がなかったことから、25年度のプール授業実施状況を踏まえて対応方針を決定するという判断により、この時期になった。



漏水のあった宮脇小学校プール

特別会計

国民健康保険事業

○特定健康診査等事業費

88万7千円

国保連合会と市を結ぶ特定健診等データ管理システムに係るネットワーク改修及びこれに伴うシステム機器の更新に要する経費を追加するものである。

介護保険事業

○認定審査会事務負担金

▲859万円

南薩介護保険事務組合負担金の確定に伴い、不用額を減額するものである。

○高齢者元気度アップ・ポイント事業費

228万8千円

事業への参加者が当初見込みより増加したことにより、不足する商品券購入などに要する経費の増額及び不用となった備品購入費等を減額するものである。

〔審査の中で〕

問 参加者が当初見込みより何人増加したか。

答 当初、1200人を見込んでいたが、老人クラブやサロン等に対して事業説明を実施した結果、登録者が4700人に達し、3500人増となった。